

文部科学省委託事業「国際交流事業」

「ヒゴタイ高校生体験交流事業」

【主 催】 国立阿蘇青少年交流の家

【協賛・後援】 エムエフエス株式会社 熊本大学教育学部

【期 間】 平成24年10月19日(金)～28日(日) 9泊10日

【実施場所】 国立阿蘇青少年交流の家、他

【参 加 者】 タイ高校生30名 引率者3名

日本高校生21名〈熊本市高校生国際ボランティアサークルスマイルステーション〉

【企画推進委員会委員】

熊本市国際交流振興事業団

事務局長 八 木 浩 光 氏

熊本大学教育学部

准教授 松 永 拓 己 氏

阿蘇火山博物館

館長 池 辺 伸一郎 氏

熊本県立阿蘇中央高等学校

校長 山 下 照 喜 氏

熊本県立阿蘇中央高等学校清峰校舎

副校長 森 山 大 介 氏

熊本県立阿蘇中央高等学校

PTA会長 河 津 亀 鶴 氏

【講 師】 熊本市国際交流振興事業団

下 田 隆 文 氏

阿蘇ジオパーク推進協議会

森 由 佳 氏

九州バイオマスフォーラム

吉 田 園 子 氏

紙すきボランティア

松 本 以智子 氏

紙すきボランティア

時 田 道 子 氏

紙すきボランティア

中 坊 雅 俊 氏

紙すきボランティア

森 本 理 愛 氏

【協力団体】 ホストファミリー16組、熊本市国際交流振興事業団、熊本大学教育学部美術科松永研究室、

阿蘇市、阿蘇神社、阿蘇火山博物館、阿蘇ジオパーク推進協議会、

野の花の宿「阿蘇の四季」、阿蘇中央高等学校阿蘇校舎、阿蘇中央高等学校清峰校舎、

鹿本農業高等学校郷土芸能伝承部、秀岳館高等学校和太鼓部、

ディスカバリーくまもとボランティアの会、再春館製薬所、サントリー九州熊本工場

1 趣 旨

東アジアを中心とした海外の青少年を招き、青少年教育施設を中心に地域の関係機関と連携し、地域の特性を生かした自然体験・文化体験等の機会を提供することにより、日本に対する理解の増進を図る。また、招いた青少年との交流をとおして、日本の青少年の国際的視野を醸成し、東アジアの中核を担う次世代のリーダーを養成する。

2 目 標

- (1) タイ国の青少年の日本に対する理解を増進する。
- (2) 日本の青少年の国際的視野を醸成し、次世代のリーダーを養成する。

3 事業展開

(1) 研修プログラム

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:45	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
1日目				9:15 福岡空港着 バス移動 福岡空港～阿蘇			昼食 (阿蘇の四季)	阿蘇市 表敬訪問	★文化・自然体験 阿蘇神社見学 水基巡り		オリエンテー ション 休憩	ウェルカム 夕食 パーティー		入浴		就寝 準備	交流の家泊
2日目	起床洗面	つどい 朝食 身支度	★自然体験 施設見学 自然散策		★交流体験(野外調理) ピザパン作り (スマイルステーション)			意見交換 会準備	★交流体験 交流・意見交流会 (スマイルステーション)				★ホームステイ体験 ホームステイ対面式 ホームステイプログラム				ホーム ステイ泊
3日目																	ホーム ステイ泊
4日目			★ホームステイ体験 ホームステイプログラム 自然散策		荷物の 整理等	昼食		★自然体験 草原での 読み聞かせ	★自然体験 草原環境学習 紙すき体験		つどい・入浴・ 夕食(バイキング)		タイ学生 (自由活動) ・ スタッフ (評価会議)			就寝 準備	交流の家泊
5日目	起床・洗面 身支度・登校																
6日目	起床洗面	つどい 朝食 身支度	★自然体験 ・火山博物館 ・火口見学		昼食 (弁当)			★自然体験(ジオツアー) ・大観峰			つどい・入浴・ 夕食(バイキング)		報告会準備 ・自由活動			就寝 準備	交流の家泊
7日目	起床洗面	つどい 朝食 身支度															
8日目	起床洗面	朝食 身支度	移動		★歴史・文化体験 (歴史・物産施設見学ツアー・ 熊本城見学) (スマイルステーション) ※昼食: フォリコ			墨絵体験 (うちわ絵入れ・大型墨絵づくり) ・学生との意見交流会 (スマイルステーション)			交流の家へ移動・ 夕食・入浴		ミーティング (報告会 発表練習)			就寝 準備	交流の家泊
9日目	起床洗面	朝食 身支度 自然散策		ホストファミリー とのお別れ会	昼食		ホテル へ移動	チェック イン	★文化体験 ・ホテル周辺		評価委員会 及び報告会	さよなら 夕食会		荷物整理等		就寝 準備	チサン ホテル泊
10日目	起床洗面	朝食(ホテル) 身支度 荷物の整理	移動 熊本駅→博多駅 ※新幹線移動		★文化体験 ・博多駅周辺 ・博多町並み ・ショッピング ※昼食: 外食			地下鉄で の移動		福岡空港発 17:00 羽田空港行き							

(2) 目標達成のための工夫

① 阿蘇・熊本の特性を生かし、関係機関等と連携したプログラムの開発

ア 学校生活体験

地元の阿蘇中央高校阿蘇校舎と清峰校舎の協力を得て、実施した。午前中は阿蘇校舎において地学の授業参加と郷土調理実習を体験し、午後は清峰校舎において木工作品制作や乗馬体験を行うなど、それぞれの学校の特色を生かしたプログラムを計画していただいた。



郷土料理作り：阿蘇校舎



木工作品制作：清峰校舎

イ ホームステイ体験

阿蘇市内の16組のホストファミリーの協力を得て、2泊3日のホームステイ体験を実施した。このホームステイ体験をととして、タイの高校生は日本の家族の温かさを実感するとともに、お風呂の使い方やおはしの使い方、日本のおじぎなど日本の生活様式や習慣などを多く学ぶことができていた。また、ホームステイ先においてタイで学んできた日本語を使うことにより、今の自分の日本語で十分意思疎通が図られるかどうかを確認することができた。

中には、ホストファミリーにタイの食文化を理解してもらうために、タイから食材を持ってきて、タイ料理を作ってあげた高校生も見られた。

ウ 文化体験

料亭「阿蘇の四季」における日本食体験や熊本城見学、熊本大学教育学部松永先生のご指導による墨絵体験を実施した。墨絵体験では、教えていただいた様々な技法を使いながら、うちに絵を描いたり、参加者全員で大型墨絵（「熊本城を囲む1000本の花」）を作成したりした。

また、環境問題に積極的に取り組んでいる「再春館製薬所」や「サントリー九州熊本工場」で産業学習を行った。この二つの工場は環境問題を克服するために植林をしたり、太陽光発電を取り入れたりするなど環境保全活動に真剣に取り組んでおり、タイの生徒は、二つの工場の見学をととして自国の環境問題について考えることができた。



日本食体験



墨絵体験

エ 自然体験（環境学習）

「環境の阿蘇」と言われる阿蘇の地域性を生かした阿蘇自然環境学習を実施した。

火山環境学習では、阿蘇火山博物館館長の池辺先生や阿蘇ジオパーク推進協議会の森氏を講師

に、阿蘇火山博物館内の展示品等について説明を聞いたり、中岳火口から草千里をハイキングしながら、世界に誇る阿蘇のカルデラ等について学んだりした。

草原環境学習では、本施設の職員から阿蘇の草原再生についての取組を紙芝居を見ながら聞き、その後、九州バイオマスフォーラムの方々に、阿蘇のすすき等を使った紙すきの仕方についてご指導をいただき、個々の発想を生かしながら思い思いに作品づくりに取り組んだ。



ハイキング（火口～草千里）



紙すき体験

オ 交流体験

熊本市の高校生国際ボランティアサークル「スマイルステーション」の生徒とタイの高校生の交流のきっかけづくりとして、ピザ作り体験を実施した。お互いに会話をしながら調理することで、すぐに心が打ち解けた。その後、国際的視野を醸成するために、「環境問題」をテーマとして意見交換会を行った。日本とタイの両高校生ともに、言葉の壁を感じつつも、一生懸命意思疎通を図ろうとしていた。

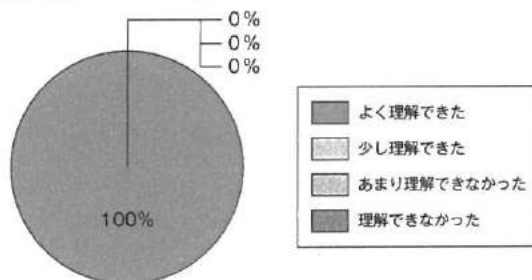
交流後に行ったアンケートには、意見交換をととして、日本の高校生の環境に対する考え方が理解できてとてもよかったという感想があった。

4 結果

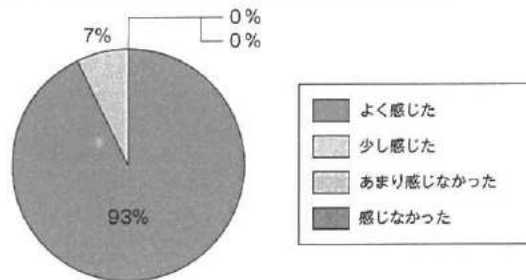
アンケートの結果は次のとおりである。＜タイの高校生へのアンケート＞

① 阿蘇独自のアンケート結果

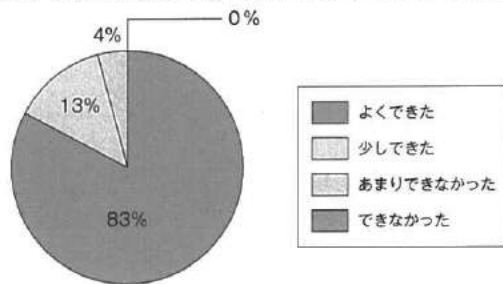
ホームステイ体験をととして、日本の生活様式や生活習慣について理解することができたか。



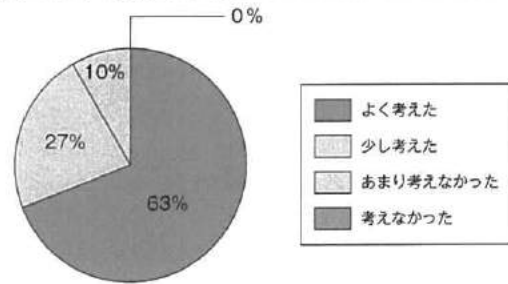
水基めぐりや紙すき体験、中岳火口見学などをととして、熊本の自然のすばらしさを感じたか。



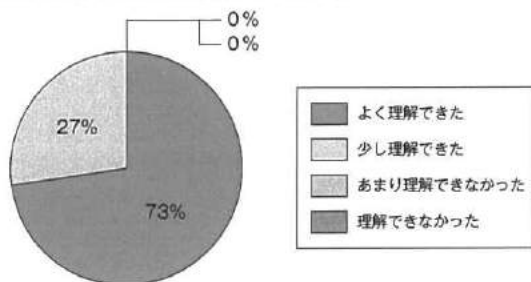
阿蘇中央高校の学校体験をとおして、日本の高校の様子を理解したり、日本の高校生と交流をふかめたりすることができたか。



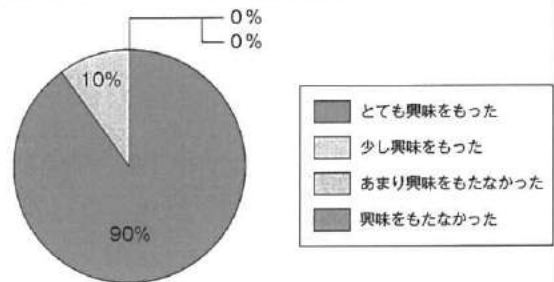
阿蘇中央高校の学校体験をとおして、日本の高校の様子を理解したり、日本の高校生と交流をふかめたりすることができたか。



熊本の二つの工場見学をとおして、日本の企業の環境問題に対する取組が理解できたか。



阿蘇神社や熊本城などを見学したり、熊本大学で墨絵体験をしたりしたことで、日本の歴史や文化に興味をもったか。



【熊本に滞在して心に残ったこと…BEST 5】

- 1 ホームステイ (20人)
 - 2 阿蘇の自然環境 (10人)
 - 3 日本の高校生との交流 (9人)
 - 4 熊本の歴史や文化 (8人)
 - 5 日本料理 (4人)
- ※ 上記の人数は複数回答によるもの

② 文部科学省によるアンケート結果（記述式のみ）

【Q1】 将来、今回の交流体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

- 今回の交流体験に参加したことで、日本語についてもっと勉強したい。
- ゴミをきちんと分別したい。
- 将来の夢に生かしたい。(日本語の通訳・ガイド・日本語教師・声優・翻訳・パン屋)
- 私は日本語がもっと上手になりたい。
- 日本人のように時間をきちんと守りたい。
- 日本の大学の試験を受けたい。(日本の留学生になりたい。)
- 日本に来て学んだことをタイの子どもたちに教えたい。
- 日本人と一緒に働きたい。

【Q2】 Q1について、将来に生かすには、具体的にどのような行動をとるべきだと考えますか。

- よい大学に入って、日本語をしっかり勉強する。
- 家族や友だちに、今回の交流体験を伝える。

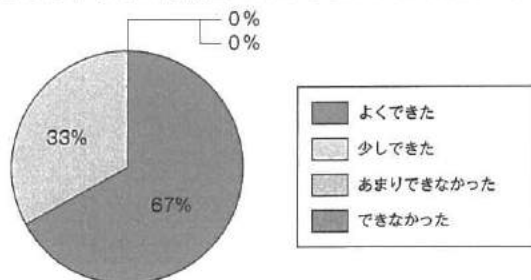
- 入りたい日本の大学を探す。(日本の大学の留学生になる。)
- 日本人の友だちをつくる。
- 日本の会社で働く。

〈日本の高校生へのアンケート〉

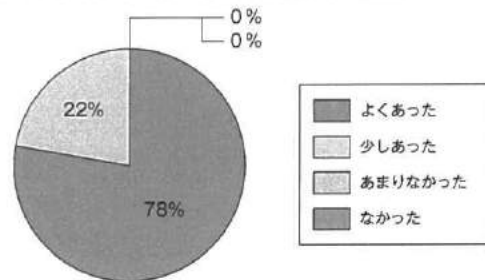
① 阿蘇独自のアンケート結果

【国際ボランティアサークル『スマイルステーション』の高校生21名(男8名 女子13名)】

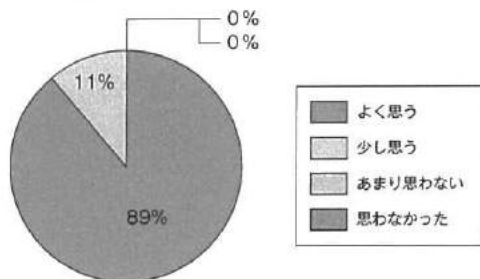
交流活動をととして、タイの高校生に積極的に話しかけるなど、タイの高校生とかわることができたか。



タイの高校生との交流をととして、日本との違いに気づくなど、いろいろな発見があったか。



今回の交流体験をととして、これからもいろいろな国々の人々と積極的にかわっていきたいと思ったか。



意見交換会

【交流活動に参加した高校生の感想《記述式》】

～ピザパン作り・意見交換会・熊本城見学・墨絵体験～

- ピザパン作りをととして、一番タイの高校生との距離が縮まった。
- みんなで力を合わせて作ったピザは、冷めてもとてもおいしかった。熊本城で再会したとき、手を振ってもらえてとてもうれしかった。
- 意見交換会でタイの人たちは、みんな積極的に話していて、日本人とは違うと思った。
- それぞれの国の環境問題について話し合えたこと。普段あまり学習することがないと思うので、そういう意味でとてもよかったと思う。これから個人でできることはどんどんしていきたい。
- 言葉の壁があり、うまく伝わらなかったけど、伝わるとお互いうれしく思った。
- 今回交流したタイの高校生との関係をこれからも続けていきたい。また、さらにより多くの外国の人と友情を築いていきたい。

② 文部科学省によるアンケート結果（記述式のみ）

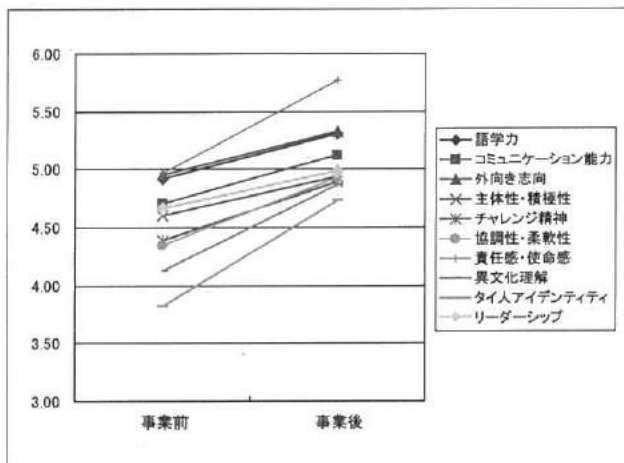
【Q 1】 将来、今回の交流経験をどのように生かしていきたいと思いますか。

- 外国の人の文化の違いを考えて、行動できるようにしたい。
- 外国に行ったときに生かす。（コミュニケーションがとれるようにしたい。）
- 社会に出たときに、だれとでも話をする。
- 海外留学に役立てる。
- 自分の視野を広げて、将来、世界で活躍する。
- 現在の世界と日本の実情を照らし合わせて、自分が今できること、すべきことをしたい。

【Q 2】 Q 1 について、将来に生かすには具体的にどのような行動をとるべきだと考えますか。

- 英語が話せるようになる。
- 自分から進んで話しかけようとする。（たくさんコミュニケーションをとる。）
- たくさんの人（外国の人）と接する。相手を敬い、尊重する。
- たくさんの方の文化を知ること。
- ちょっとした国際行事などに、できる限り参加する。（積極的に国際交流に参加する。）
- 自信がなくても積極的に話しかけ、壁をつくらないようにするべきだと思う。
- 失敗をおそれない。

〈タイの高校生の事業前・事業後の意識の変容（t 検定）〉



t 検定において、責任感・使命感以外の要素については、すべての項目において有意差が認められた。
($p < 0.01$)

【次年度の改善策】

責任感や使命感を高めるために、日常生活における係り活動や担当を割り当てるなど、自己の責任感や使命感を高める工夫を行う必要がある。

〈評価会より〉～タイの高校生の発表内容～

日本の環境問題とタイの環境問題は、少し似ていると思います。私は日本の高校生と一緒に環境問題の解決方法を考えました。私は、日本の高校生から環境の守り方を勉強しました。新しい友だちもできました。



日本の高校生と意見交換をした後、環境の大切さが分かりました。環境問題は、みんなが一緒に考えて解決すべきものです。私たち一人一人が地球を守ろうとする意識があれば、環境問題はなくなると信じています。また、タイに帰ってから、友だちと環境問題について話して考えようと思いました。

日本の公園はタイより美しいです。日本人はみんな、一生懸命自然を守っています。私たちは、タイの自然を守る活動を広げていきたいです。

私たちの食べる料理や私たちが飲んでいる水は、すべて自然から生まれ、自然に戻ると思います。私たちは自然とともに生きていかなければなりません。

みなさん、大切な自然を守りましょう。



私たちの国の大きな問題は「ごみ」です。問題の原因は、リサイクルをしていないからです。タイでは、紙のごみを燃やして処理しますが、それでは地球が温かくなります。国はリサイクルのために、もっとお金を出してほしいです。

工場と言えば、たくさん機械や大きな設備があるというイメージでしたが、再春館製菓所には、たくさんの緑があり、空気もきれいで、太陽の光を使って発電していました。タイにもこのような工場がたくさんあればいいなあとと思いました。



サントリーの工場は、リサイクルを重視し、環境を大切にしています。例えば、使ったペットボトルを会社の制服にしたり、残ったお米をえさにしたり、残った酵母を肥料にしたりしています。

タイに帰ったら、ものを大切に使うようにしたいです。

〈評価の結果を受けて〉

評価会でのタイの高校生の発表内容に共通することは、環境に対する意識の高揚がみられたということである。次年度も「環境の阿蘇」と言われる阿蘇の独自性を生かしたプログラムを展開することにより、阿蘇ならではの教育事業を展開していきたい。また、日本の高校生の国際的な視野の醸成・リーダー性の育成が一層図られるようなプログラムを構築していきたい。

5 成果と課題

(1) 成 果

- ① 水基めぐり、中岳火口見学や大観峰などのジオサイト見学、紙すき体験など阿蘇の地域性を生かしたプログラムや、再春館製薬所やサントリー熊本工場など環境保全に取り組んでいる企業での学習を取り入れたことは、タイの高校生の環境問題に対する意識を高めるとともに、環境保全という観点から日本に対する理解増進を図ることにつながった。
- ② 日タイの高校生同士の意見交換会等において、時には英語を使ったり、絵を描いたりしながら、言葉の違いという大きな壁を乗り越えて意思疎通を図ろうとする姿が随所に見られた。このような気持ちこそが国際的な視野を広げるとともに、次世代のリーダーを養成することにつながっていくのではないかと考える。
- ③ 昨年度の成果と課題を踏まえ、事業計画から事業実施に至るまで熊本市国際交流振興事業団・熊本大学・阿蘇中央高等学校・NPO団体等と密に連絡調整を行い、十分に連携を図りながら進めてきたことで、より効果的な国際交流事業のプログラム開発と本事業の二つの目標の具現化に十分迫ることができた。

(2) 課 題

- ① タイの高校生が日本の高校生に対する理解増進を図る上で、本年度は日本とタイの高校生を直接交流させる機会が少なかったように思われる。次年度は、プログラムの見直しを行ったり、直接交流できるような場を意図的に設定したりすることにより、日本とタイの高校生の交流の機会を増やし、相互理解が一層図られるように努める。
- ② 話合いの成否にこだわらず、自ら考え、主体的に関わる日本の高校生のリーダー性を養成するために、意見交換会のテーマ設定から企画・運営に至るまですべてを高校生に委ねるようにし、自分たちの力でやり遂げたことへの充実感や満足感が十分味わえるようにする。